

### 6) ぶりき, TFS 用連続焼鈍技術と製品 田辺 博一

ぶりき, ティンフリースチール用連続焼鈍技術は, 1980 年代に入つて第二の発展段階を迎えている. そこで本講座ではまず第一段階の発展の引き金となつたパッチ焼鈍材の問題点を列挙し, さらに米国における T-U ぶりきの発展と日本への導入, 転炉製鋼の進歩に伴う軟質化, 等方性の CAL 材, 二回圧延する硬質材の中間焼鈍としての CAL の利用等について説明する. 次に最近の技術の進歩を, 「高速化と極薄化への対応技術」, 「省エネルギー技術」, 「CAL 材の軟質化と特性の多様化」に分けて紹介する. 特に軟質化と多様化に関しては, 調質度と時効性のコントロールに重点を置き, 従来の CAL 材の有する時効特性等と比較して説明する. 最後に, 各調質度別のぶりき, ティンフリースチールの用途の現状と今後の多様化について, 予測を混じえて述べる.

### 7) 亜鉛・アルミめつき用連続焼鈍技術と製品 広瀬 祐輔

大型・高速めつきラインの増加, めつき用原板の連続化率の増大および需要家サイドからの高品質化要求ないし新ニーズに対応するために, 近年, 溶融亜鉛めつき鋼板の連続焼鈍技術の進歩にも著しいものがある. ここでは, 代表的な新製品, 新技術として最近, 報告されている加工用および構造用亜鉛めつき鋼板をとりあげ, それらの品質特性や焼鈍技術の進歩, さらに関連製造設備の開発状況を紹介する. Al めつき鋼板の連続焼鈍技術についても, 若干, 言及する.

### 8) ステンレス鋼用連続焼鈍技術と製品 澤谷 精

ステンレス鋼板用連続焼鈍技術の最近の進歩について, オーステナイト系とフェライト系ステンレス鋼に分けて述べる. ステンレス鋼板の製造プロセスでは, 熱延鋼帯の焼鈍が広く行われているところに特徴がある. 熱延鋼帯焼鈍の製品材質および冷延工程におよぼす影響について述べる. 冷延鋼帯の焼鈍技術については, 大気中焼鈍の他に光輝焼鈍の製品材質におよぼす影響について述べる. ステンレス鋼板の製品特性で特に重視される表面性状は, 焼鈍条件だけでなく脱スケール条件に大きく影響されるので, 必要に応じて脱スケール工程についても言及する.

### 9) 冷延鋼板用連続焼鈍技術と製品 苗村 博

1970 年代はじめより実用化された冷延鋼板用連続焼鈍設備はガスジェット冷却法, 水焼入法ともに, 当初は軟質材の製造が主体であつた. その後, 製造ラインの省エネおよび短縮化, 脱ガス技術の利用, 薄鋼板のハイテン化などの傾向をうけて, ロール冷却法, ミスト冷却法などのプロセスも生まれ, かつその製品も多様化されている. ここでは, これらラインの設備と操業, 品質特性, 冷延工程プロセス化への展望などについて述べる.

IV 聴講無料 (事前の申込みは必要ありません)

V テキスト代 4,500 円

VI 問合せ先 〒100 千代田区大手町 1-9-4 日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021

### 第 8 回「マトリックス解析法に関するシンポジウム」の開催と発表論文の募集

1. 主催 日本鋼構造協会
2. 協賛 日本鉄鋼協会ほか
3. 開催期日 昭和 58 年 6 月上旬
4. 会場 東京 (詳細未定)
5. 発表論文の募集
  - 5.1 部門 a) 基礎理論および計算法 b) 棒, 板および殻 c) 非線形問題 d) 動的問題 e) 構造設計 f) 地盤・岩盤 g) 流体・熱 h) データ処理等
  - 5.2 申込締切 昭和 58 年 3 月 10 日(木)
  - 5.3 発表論文原稿締切, 昭和 58 年 4 月 22 日(金)
  - 5.4 問合せ 日本鋼構造協会「マトリックス解析法に関するシンポジウム」係  
〒100 東京都千代田区丸ノ内 3-3-1  
新東京ビル 848 Tel. 03-212-0875

### 書 評

#### Schlackenatlas (Slag atlas)

ドイツ鉄鋼協会編 1981 年

本書は鉄鋼スラグの構造に関する最近の理論を簡単に紹介した後, 二元系から多元系に到る状態図, 鉄鋼スラグの組織, 熱力学データ (含むサルフアイドキャパシティ) ガスの溶解度, 密度, 粘性, 表面, 界面張力, 電気伝導度について章を設け, 800 以上の文献からのデータを集録している (拡散係数と熱伝導度のデータは含まれていない). この種のデータについては従来本会編の「溶鉄・溶滓の物性値便覧」(1970) J. Elliott ら編の「Thermochemistry for Steelmaking」Vol. 1(1960) Vol. 2(1963) を参照していたが, 最近 15~20 年のデータをも網羅して現在最も信頼できる集録が入手できることになつたわけである. 現在日本学術振興会製鋼第 19 委員会準備中の鉄合金の熱力学的データの集録と合わせれば, 当分の間データの収集に苦勞しなくて済みそうである. なお各頁および図が英独二ヶ国語で記述されているので一般の読者に大変便利である. (佐野信雄)

A 4 判 上装本 282 ページ

定価 DM 245 (含送料)

[Verlag Stahleisen m. b. H., Düsseldorf]